昭和52年５月25日　第３種郵便物認可　令和３年１月10日発行（毎月１回10日発行）

# 円福

世界の円満
人類の福祉

THE ENPUKU

1月

2021　No.484

世界法民連帯　円福友の会

# 円福友の会入会のすすめ

## 1食1円のＳＡＢＡ運動で世界の平和に尽くしましょう。

ＳＡＢＡとは、禅寺の僧堂でお食事の前に、七粒ほどのご飯をお膳のすみに取っておき、後で小鳥に施す「生飯（さば）」というお作法のことです。

これを日本の皆さんの１食１円のＳＡＢＡとして、アジアの貧しい国々の子ども達のために学校建築（教育）や、井戸やトイレの設置（環境衛生向上）を支援する、国際ボランティア資金の運動です。１食１円ならどなたにもできます。塵も積もれば山となるように、皆さんの御協力をお願いする大きな愛の運動です。（この運動は、特定の政党や宗教や思想に関係のない、非営利の国民運動です。）

綴じ込みの郵便振替用紙を使い年会費やＳＡＢＡ運動等の協力金をお送りください。お送りいただいた皆様には毎月『圓福』と『おもいやり』をお送りし、円福友の会の活動と円福寺愛育園の子どもたちの様子をご報告いたします。

# 表紙の写真

三本目の井戸です。
1本目は　ヴァ　ケン　さん
2本目は　チュウン　ラタナ　さん
3本目は　ソティ先生
です。
ソティ先生（校長先生の下で、校長先生を支えてくれている人）の家です。
校長先生の息子さんが、写真を送ってくれています。

# 1月号の内容


にこにこ法話　鬼は内　1ｐ
第32回仏教講座・誌上講演会　コロナのお話　3ｐ
タイ・スラム奨学生からのたより　7ｐ
途上国開発協力こぼれ話　⑦タイ北部から内戦のラオスに入る　12ｐ

# ニコニコ法話

## 鬼は内

あけましておめでとうございます。

昨年は、一月に新型コロナウイルスの感染が始まって、三月に一波、七月に二波が来て、それが十一月から三波になって、今も大きく拡がっています。一日当たりの新規感染者は全国で三千人を超えて（12／12）、その勢いはとどまるところを知りません。皆さまは、きっとさまざまな不自由を引き受け、感染しないように気を付けて生活しておられるのではないかと思います。

今年はコロナの感染はどのようになるのでしょうか。

一　ワクチンができて、それを接種することによりコロナに罹患しなくなる。

一　薬ができて、罹っても治るようになる。

一　よく休んで、うまいものを食べて、運動をして免疫力を高める。

菅谷先生は、コロナが終息するには、これしかないと話されました。十二月にイギリスやアメリカでワクチンの接種が始まっています。見守りたいです。

昔、節分で「鬼は外、福は内」と言うところを、父が「福は外、鬼は内」と言っていたのを思い出しました。福は皆さんに分け与えましょう。鬼は内に呼び込んに分け与えましょう。鬼は内に呼び込ん

# ニコニコ法話

で引き受けましょう。そんな意味かなあと思っていました。

誰もが鬼が嫌だと外に追い出します。鬼は豆に当たって痛い、悲しくて淋しい、そう言って道の隅で泣いていたそうです。それを憐れんで父は「鬼は内」と言ったのです。でも鬼は怖いです。怖い鬼を内に呼び込むなんて、本当に良いのかなあ、父は怖さを分かっているのかなあと思っていました。「コロナ鬼」を呼び込んだら、罹って死んでしまうかもしれません。

菅谷先生は、「コロナ鬼」を外へ追い出すと、変異して、もっと強くなって人間を襲ってくると言っておられました。「コロナ鬼」とも仲良く棲み分けることはできないのでしょうか。先生は「思いやりの心」を持ちましょうと言っておられます。罹ると怖いけれど、思いやりの心をもってコロナ鬼も受け入れられれば、きっとコロナもおとなしく棲み分けてくれるのではないでしょうか。

コロナ差別も、いじめも、自分が罹らないようにと思うあまりに、『鬼は外』で起こることかと思います。『福は外、鬼は内』の思いやりの心の一年にいたしましょう。

今年もよろしくお願いいたします。

第32回仏教講座・誌上講演会

# 運命を受容して生きる

聞き手・
南長野仏教会々長
円福寺
藤本光世

前松本市長
松本大学学長
菅谷 昭先生

## （その2）コロナのお話

**藤本**―コロナのお話をお聴きしても良いでしょうか。先生は前から警告をされておられました。そして、コロナは退治するのではなくて一緒に生きると書かれていました。

**菅谷先生**―私は医療者であったからかもしれないけれど、医療の世界では今後また新興感染症が起こることがあるから、常に注意していきなさいということは言われているんです。時代が進むと新興感染症が起こりますよ、その対応をちゃんとしなければいけないよと言ってきました。全世界がそれに耳を貸さず危機管理がなっていないからこうなっちゃったんです。

コロナの一番の問題は治療薬がないことですね。ワクチンと騒ぐけど、そんな簡単にできるわけないですから。武漢ではもともと蝙蝠にいたウイルスを研究していたんでしょうかね。だって、もともとウイルスなんて言う

ものは人類よりもっと前から存在していたものですから。それに対して人間が危機対応をしてこなかったからこうなっちゃったんです。昔、スペイン風邪を経験しているから、新しい感染症が起こることは予想できるのに、経済とか違うほうに視点が向いていたんですよ。ウイルスは人類より先にあって、生きることは強いんですよ。どんどん形を変えて生きるんです。だから私は、人間は万物の霊長と言って不遜で傲慢になっているけれど、よく考えてみると人間は一番弱いと思いますよ。地球上の生物の中で。あのコロナで人間は死んじゃうんですからね。逆にコロナは人間の中で増えていくんです。だからそういう意味で言えば、人間は驕っちゃいけないですね。私はこれはすごくいいチャンスだなあと思ったのは、人間が改めて自分の生き方を考えなおさなければいけない。コロナは野生の動物の中に静かにいたもので、人間が開発なんかで環境汚染とか乱獲で自然の中に入っていき、産業や経済で森を壊してそういうところから出てきたわけですから。やはり必要なのは、思いやりですかね。他人に対する思いやりとか、自然に対する思いやりとかあるいは地球全体を考えるように生活を改めて、環境汚染を含めて温暖化もそうですけど、そういうことを考えるとってもいい機会ではないかと思います。

コロナは、薬が出てくるまでは、マスクして、手を洗って、密にならないようにしてこれしかないと思うのです。それとは別にして、改めて私たちは生き方を考えなければいけないと思います。利他と言いますけど、おもいやりを人だけではなくて自然とか環境にも向けて、お互いに助け合うとか、国と国が平和で仲良くするとか、それが大切ですね。

コロナ禍は日本人が正気に戻るいい機会とある作家が言っていましたよ。ウイズコロナで生き方を考えることができれば、まさに自分だけでなく地球全体を考えることが必要な

時代が来ていると認識するのではないでしょうか。

僕は、福島の原発事故の時に、日本人はつらい経験をするかもしれないが、改めて生活を考えなおすいい機会と思ったけれど、すぐ忘れてしまっているし、今回のコロナの騒ぎは、ワクチンのことを言っているけど、本当は自分が悪いんだよと反省すべきだと思ったのです。日本だけでなく世界が反省すればいいと思います。いずれ人類がいなくなってしまうかもしれないのですから。

**藤本** ― 先生は、睡眠をとって食事をとって運動をして、免疫力を付けましょうと書いておられます。

**菅谷先生** ― 普通の言葉では抵抗力と言いますけど、抵抗力は免疫力ですからそれを維持するためには、よく休むとか食事をするとか運動することで免疫力を高めるんです。

**藤本** ― コロナは最終的にはどうなるんでしょうか。

**菅谷先生** ― 二つあると思います。

一つはワクチンができれば、病気の人は出なくなります。そうすると自然に消滅します。

もう一つは治療薬ができれば、やっつけることはできるでしょう。

でも多分ウイルスは消えませんね。人の体で増殖できなくなると、遺伝子構造を変えてしまうんです。それによりさらに強いウイルスができるんです。それがまた新興感染症になるでしょう。このようなことの繰り返しではないですかね。

ウイルスはどこにでもいるんです。動物の体でもいいんです。コロナは蝙蝠の中で生きていたでしょう。でも蝙蝠には症状が出ないでしょう。死なない。人間が一番弱い。犬や猫なんてコロナを食べているじゃないですか。でも、みんな生きていますね。免疫の実験で、動物で実験してこれこれこうだから人間でもこうだというのは間違いですよ。ネズミで実験してこういうデータが出たという意

義は分かるけれど、ネズミはあんな汚いところで生きてるんですから免疫力は高いんですよ。人間は一番弱いですよ。こんなきれいなところで生活しているんですから。だからせめても免疫力を高めるには、運動をしたり良いものを食べたり睡眠をとるべきと思っているんです。

あっ、だから人間はもっと謙虚になるべきですよ。人間は、僕らは一番弱いんだと。そこから始めなければいけない。一番威張っているのが人間ですからねえ。だからさっき、「ほとけのいへになげいれる」と言われましたけどそうならなければ。

**藤本** ― 自分の思うようになると思っている。

**菅谷先生** ― そうですよ。今回、反省というより生き方を考え直せというのは、ほとけさまのお示しでしょうか。人間て懲りないなあと思っているんですけど、全世界が仲良くなって、ワクチンを分け与えるとか、薬を一緒に作るとかやっていかないとだめですよね。宗教の力かなあ。

菅谷先生の笑顔と生き方に触れて、とっても楽しい対談になりました。先生のますますのご活躍をお祈りいたします。

藤本光世 合掌

# ー タイ　スラム奨学生からのたよりー

11月30日に、プラティープ財団より奨学生からのたよりが届きました。クロントイスラムはバンコックにある、人口密集地帯です。コロナの中で、みんな頑張っています。

尊敬する里親様へ

こんにちは。私はナッニチャー・クルアオンです。里親様には教育奨学金を支援いただき、本当にありがとうございます。今、私は大学4年に進級します。しかし、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のため、家でオンライン授業を受けています。里親様のご厚意にこたえるためにも、よい成績を得られるように頑張ります。この手紙を書いている今は暑季休暇が続いた状態で、私は地域内で食事を配るボランティアをしています。

それでは、里親様、ご家族の皆さんのご健康とお幸せをお祈りします。

敬意をこめて

ナッニチャー・クルアオンより

なお、この奨学生の学年は、大学4年です。

尊敬する里親様へ

こんにちは。前回のお手紙からもう1年が経ちました。早いものです。また、今年は非常に悲しく恐ろしい感染症におわれていますが、それが何時になるかはわかりませんけれど、きっと終息する時期がくるはずです。『嵐が去った後の綺麗な空』といった感じで、よい方向になっていくのではないでしょうか。

それでは、里親様のご健康とお幸せをお祈りします。

敬意をこめて

カノックポーン・マハーポンより
なお、この奨学生の学年は、大学４年です。

尊敬する里親様へ

こんにちは。里親様はお元気ですか。私は元気にしています。この春、私は大学３年を終え、新学斯から４年に進級します。この手紙を書いている今は暑季休暇中です。例年の場合ですと、アルバイトをしていたのですが、今年はコロナ感染症（COVID-19）が拡がっているためお店も閉店となって働くこともできません。私は家にいてケーキ作りの練習をして売り、少しは家計を助けることができています。また、とても楽しくよい経験となっています。

ところで、里親様はコロナの影響を受けておりませんか。

それでは、里親様、ご家族の皆さんのご健康をお祈りします。

敬意をこめて

ナームティップ・スリーサワンより
なお、この奨学生の学年ほ、大学４年です。

尊敬する里親様へ

こんにちは。僕はワタンユー・ワーンポンです。新学期から大学３年に進級します。大学２年を終える頃にコロナ感染症（COVID-19）が拡がってきて、どこへ行くにも不便な状態になりました。大学の授業もオンラインで開始するようになりましたが、わからない内容も出てきて、早くコロナが終息してほしいと思います。このままでは健康にも良くないです。里親様の方は大丈夫ですか。十分に気をつけて過ごしてください。

里親様のご健康をお祈りします。

敬意をこめて

ワタンユー・ワーンポンより
なお、この奨学生の学年は、大学３年です。

尊敬する里親様へ

こんにちは。この手紙を書いている今は暑季休暇中で、しかも新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡がっている時期でもあります。ただ早く授業が始まることを待っているのですが、こうした状況を理解していくしかありません。ちょうどお菓子売りをする仕事があり、売り歩いています。コロナが終息すれば、全てが順調にいくようになると思います。私と家族は元気にしています。ところで、里親様はお元気ですか。十分に気をつけてください。

それでは、里親様のご健康をお祈りします。

敬意をこめて

グンラサトリー・チュースワンより

なお、この奨学生の学年は、大学４年です。

---

尊敬する里親様へ

こんにちは。私はベンジャポーン・ターウォンバンディットです。ニックネームはパイといいます。新学期から高校３年に進級します。今回は軍事キャンプについて報告したいと思います。今年で２年目になり、２泊３日のプログラムでカンチャナブリ県ラードヤー郡で実施されました。初日、６時に出発なので朝４時に起床して５時に家を出ました。キャンプ地に着く前に寺院を参拝して、その後、ラードヤー郡の地が以前は馬術場であったなど歴史の説明を受け、いろいろなトレーニングを受けました。これからも私は真面目に一生懸命勉強していくことを約束します。

敬意をこめて

ベンジャポーン・ターウォンバンディットより

なお、この奨学生の学年は、高校３年です。

---

尊敬する里親様へ

こんにちは。僕はカチャイン・ポンラムジャイアックです。里親様には教育奨学金を支援いただき、本当にありがとうございます。おかげ様で、新学期から僕は大学１年に進学

します。僕は受験に必要な成績がパスできて、とてもラッキーでした。僕は決して優秀な方ではありませんが、里親様のご厚意にこたえるためにも、一生懸命勉強していくことを約束します。

里親様、とても感謝しています。

敬意をこめて

カチャイン・ポンラムジイアックより

なお、この奨学生の学年は、大学1年です。

**カチャイン・ポンラムジィアックの紹介（2020年奨学生）**

彼は一人っ子である。父親は彼が十歳の時に電線の事故により亡くなった。母親は失業して彼を養育できないため、叔母が養母となって彼を育てていくことになり、母親は別な家で病気により動けない祖母の面倒を見ている。叔父と叔母の二人が働いて家族の生計を立てている。叔母は惣菜売りをして日に４００バーツの収入である。叔父はバイクタクシーの運転手として働き、日に３００バーツの収入である。ところが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、住民たちが節約ムードになり、利用者が減ってきて収入も不安定になってきた。家族は70ライ地区にある持ち家に住んでいるので家賃はかからないが、水道・電気代を月に９００バーツ支払っている。

尊敬する里親様へ

こんにちは。この春、私は高校を卒業しました。今年度から試験にパスできたので大学に進学することになります。里親様はいかがお過ごしですか。今は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡がっていますから、里親様も予防のためによく手を洗って十分に

気をつけてください。私と家族は元気にしていますので、里親様もお元気のことと思います。

里親様には奨学金を支援いただき、本当にありがとうございます。

敬意をこめて

スニサー・チャーンイヤムより

なお、この奨学生の学年は、大学1年です。

**スニサー・チャーンイヤムの紹介（2020年奨学生）**

彼女は、二人姉妹の姉である。両親は離婚したため、母親が二人の子供を養育してきている。母親はコンビニ「セブン」の従業員として働き、月に12,000バーツの収入がある。昨今の物価高により、家族はかなり厳しい状況で暮らし、足りない時は高利貸から借金をして生活している。家族はバンコク郊外ワチャラポン地区の持ち家に住んでいるので家賃はかからないが、水道・電気代を月に1,500バーツ支払っている。

## 2019年度表

| 科目 | 前期成績 | 後期成績 | 結果 | 成績・評価・点数 |
|---|---|---|---|---|
| タイ語 | A | A | □ 卒業 | A 秀 100 ～ 80 |
| 数学 | C | C | ☑ 進級・進学 | B 優 79 ～ 70 |
| 社会 | B | A | □ 落第 | C 良 69 ～ 60 |
| 理科 | B | B | □ 中途退学 | D 可 59 ～ 50 |
| 英語 | A | C | ☆ 備考 | F 不可 49 ～ 40 |
| 体育 | A | A | | |
| 職業訓練 | A | A | | |

## 途上国開発協力こぼれ話
## ⑦タイ北部から内戦のラオスに入る

円福友の会顧問　吉田恒昭

知足の生き方の話題から山頭火にまで話が脱線してしまいました、インドシナ青春の旅に話を戻します。私の旅はチエンマイから更に２００キロ北のラオスとビルマとの国境が交差する、ケシ栽培で名高いゴールデン・トライアングルと呼ばれているチェンサエンに向かいました。この町は14世紀にチェンサエン王国の首都として建設され、その後衰退しました。近年にはラオス、ミャンマー、中国との交易の玄関口として注目を集めるとともに魅力ある観光地スポットとして人気が高まっています。メコン河見たさとは言え、私も良くぞこんな奥地まで来たものです（写真①）。若さが危険感覚を麻痺させると言うべきでしょう。近年では、中国の南下政策の波がこの地域まで及んで、この町もかなり大きくなってきていますが、この地域には今も多くの異なった山岳民族が住んでいます。彼らの子孫は中国の雲南方面から2・3世紀前に南下して来たと云われています（写真②）。しかし平地は既にラオ族、タイ族に占められており、やむなく山岳深くに居を構えかつては換金作物のケシ栽培をしていました。最近では国際機関や

①チエンサエンの丘にて、1968年

各国政府の指導でケシ栽培を他の作物に転換し、併せて観光客相手の刺繍製品で生計を立てています。山をひとつ隔てると、言葉も服装も習慣も異なる山岳民族がたくさん住んでいるのです。

ここチェンサエンからメコン河を下り、ラオスの王都ルアンプラバン迄約300数十キロを船で南下

②左からヤオ族、イコー族、アカ族の山岳民族、1968年

する予定で3日待ちました。しかし一向に船は出る気配がなく、人々の話では戦時下のラオスでは、特に南のパクベン辺りで戦闘があり、多くの船が沈められているとのことでした。先ずはラオス側の国境の町のホエサイへ入るべく、河を下れば50キロですむところを乗り合いバスで約200キロも走ることになってしまいました。この間の道路は真赤なラテライト、バスはもうもうと赤い砂ケム

③メコン河 対岸がラオスのホエサイの町、1968年

リを舞上げて走りました。途中数台のトラックに出合い、その時は赤い煙の中にでも突入したかの様に車内に赤い砂塵が舞い、手ぬぐいでマスクをしても鼻喉がヒリヒリしてきます。終着のチェンコンに着いた時は着ていた白シャツはすっかり赤くなってしまいました。ここから写真③にある小舟でメコン河を渡りラオスの町ホエサイに入ります。この地で私は「子をもって知る親の恩」を知らずに、両親に「今から内戦の国ラオスに入ります、万一消息不明になったらこの辺りだと諦めて下さい」と遺書めいた手紙を投函したのです。若気の至りとは言え親不孝の愚息これに極まれりだったのです。一生の不覚でした。

さて、メコン河を渡りホエサイの町に入ると、入国管理事務所など見当たらず、東京で貰ったビザの期限は既に切れていたので、不安になりながらも木賃安宿に投宿しました。その晩には遠くから雷鳴だか砲撃音だか分からない不気味な音でなかなか寝付けませんでした。翌日には軍服のポリスと称する警官が宿屋に現れて、厳重な身体荷物検査と尋問を経て、ようやくパスポートに入国許可のサインとスタンプを押してくれ安堵したのです。ホエサイの町は至る所に兵隊の姿を見かけ、内戦の国ラオスに入ったことを実感しました。

今ならば、日本外務省は間違いなくこの地域を「渡航禁止地域」に指定したことでしょう。このわずか千人にも満たないと思われるホエサイの町にはアメリカ軍によって造られた小さな飛行場がありました。町からジープで約十分、河岸段丘をブルドーザーでならした程度の赤土と小石がごろごろした滑走路で、メコン河に向かって少し傾斜がついています。つまり飛行機が離陸する時は坂の上の

方から勢いをつけてメコン河に向かって飛び立ちます、そして着陸は反対にメコン河にあたかも突っ込まんばかりに低空飛行し慌てて機首を上げて滑走路に着陸するわけです。離着陸は見ていても飽きないほどスリル満点でした。この飛行場には、米軍に依託されたエア・アメリカの輸送機が一時間おきぐらいに発着し、戦略物資を積下ろしていました。私が旅をした１９６８年当時は東西冷戦がインドシナ半島を支配しており、北ベトナムと中国に後押しされたパテトラオ（ラオス愛国戦線）が支配地を広めてラオス国内を南下しつつありました。これを防ぐべくホエサイは米軍の補給拠点なのです。陸路及びメコン河の水運は遮断され、アメリカ軍と政府軍の補給は空路だけに限られてしまっていたのです。

さて、この小さな飛行場からラオスの民間航空（ロイヤル・エアー・ラオ）が週数便写真④の小型のプロペラ機で、南に位置する古都のルアンプラバンと首都ビエンチャンへを往復しています。町で購入したチケットには午前十時に飛行場へ来るようにと書かれていましたが、離陸したのは3時間後でした。飛行場の待合室、と云っても竹の壁で造った粗末なもので、その壁には首相の写真と飛行機に「近寄ると危険」を示すポスターが5か国語で書かれていました（写真⑤）。危険という文字が英語、ベトナム

④ホエサイ飛行場（世界一ボロの滑走路）

⑤待合室の竹の壁に貼られたポスター

語、ラオ語、タイ語、漢字で書かれています。当時のラオスが多国間紛争の巻き添えであることを如実に物語っています。私は滑走路に立って、おおよそ飛行場とは縁遠い珍しい光景にシャッターを切ったのですが、その刹那に一人の警備兵士が大きな叫び声を上げてM16カービン銃の銃口を私に向けて怒りの形相で駆け寄ってきたのです。私は咄嗟に両手を上げ、「ノーノー」と叫びながら、シャッターは押していないと必死の身振りで応えました。この動作が功を奏してかフィルムを抜かれることもなく貴重な④の写真がカメラに残ったのです。間一髪で命拾いの一幕でした。とにかく、この飛行場は世界に二つとないオンボロ飛行場であったのは写真に見る如しです。この地域まで取材に来るマスコミは皆無であったようで、私がルアンプラバンに無事着いて街中でうろうろしていた時に出会った中日新聞の記者へ情報提供をしました。その見返りに、旅行中最高のフランス料理にありつけたことを覚えています。

（続く）

# 感謝のお知らせ

○令和二年十二月　前半分
（十一月二十八日～十二月十四日）

●ＳＡＢＡ資金
（東京都）　様
（神奈川県）　様
（群馬県）　様
（長野県）　様

（大阪府）　様
（和歌山県）　様

（住所不明）　様

●エコ村支援
（東京都）　様
（長野県）　様

●おもいやりの会
（東京都）　様
（長野県）　様

●大黒天祈祷料
（東京都）　様
（埼玉県）　様
（群馬県）　様
（長野県）　様

（山梨県）　様

ご協力ありがとうございました。

**一月の法母会**
二十四日(日)　午前九時より

**二月の参禅会**
七日(日)　六時より

『円福』　令和3年1月号
第四八十四号
定価一五〇円

発行日　令和3年1月10日
発行人　藤本光世
発行所　円福友の会
〒388-8005　長野市篠ノ井横田円福寺
ＴＥＬ(〇二六)二九二－〇三八一
ＦＡＸ(〇二六)二九三－九六二九
振替口座
〇〇五二〇－七－一六二五六

円福友の会・ＳＡＢＡスクール

愛の日の丸　ＳＡＢＡ運動

カンボジア小学校校舎建設

カンボジア　エコ村支援

タイ スラム街奨学生支援（教育里親）

大災害被災地支援

シャンティ国際ボランティア会協力

おもいやりの会（愛育園児童自立支援）

太平観音堂護持発展

円福友の会入会のすすめ

上記の **協力金は**　郵便振替 **00520－7－16256**
加入者　**円福友の会**　あてに御送金下さい

〒388-8005　長野市篠ノ井横田 円福寺内
TEL　０２６－２９２－０３８１
FAX　０２６－２９３－９６２９
http://ryu-enpukuji.com/tomonokai/
enpuku2@janis.or.jp